

遊びを通して

主体的に活動する子どもが育つための援助の工夫

目 次

I	テーマ設定理由	1
II	園の教育目標と研究テーマとの関連	2
III	主体的に活動する子どもが育つための教師の援助	4
	1. 幼児理解	4
	2. 信頼関係を築く	4
	3. 友達関係を育てる	5
	4. 環境を構成する	5
IV	保育実践	6
	1. 指導計画	6
	2. 発達課題	7
	3. 週案	8
	4. 園内の環境構成図	10
	5. 日案	12
	6. 展開例	18
	7. 反省と考察	20
V	まとめと今後の課題	21
	<主な参考文献>	22

遊びを通して

主体的に活動する子どもが育つための援助の工夫

浦添市立内間幼稚園教諭 野原 順子

I テーマ設定理由

新幼稚園教育要領に「幼稚園教育は幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」とうたわれている。その際、重視する事項として、(1) 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。(2) 遊びを通しての指導を中心としてねらいが総合的に達成されるようにすること。(3) 幼児一人一人の特性に応じ発達の課題に即した指導を行うようにすること。とあり、子どもの自主性、自発性、主体性を重視すべきことが強調されている。

幼稚園での子どもたちの遊びを見ると、子どもが自ら進んで活動している姿は実に生き生きしている。「先生、私のあさがおの花が咲いたよ、水をいっぱいかけてきたよ」「なわとびでゆうびんやさんができるようになったからみて」とか、友達同士で「今日の砂遊びは楽しかったね、また明日も一緒に遊ぼうね」などと、話しをしながら片づけも進んでやっている。このように子どもたちは、興味・関心を持って自ら環境にかかわり、身体を動かし、物に触れたり、試したり、作ったりして遊びを楽しんでいる。遊びを通して子どもは友達とのかかわり方を学び、仲間を作り、互いに刺激し合ってものごとに取り組み、心情、意欲、態度を身につけていくようである。

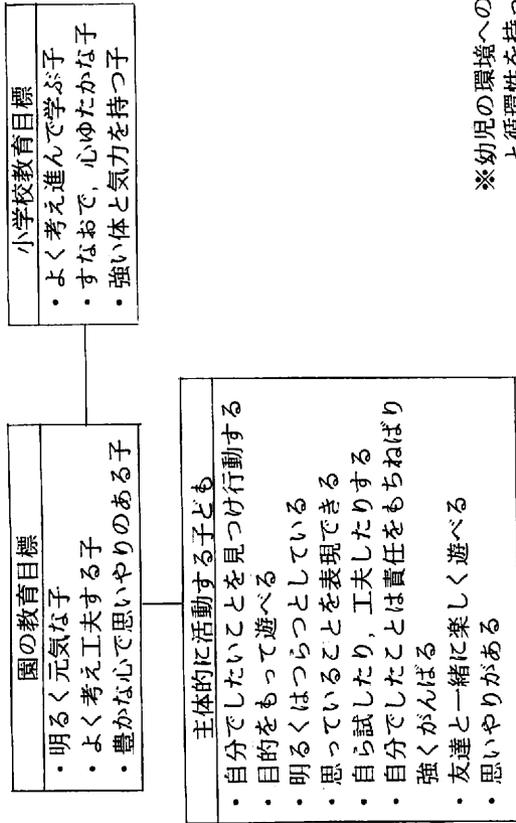
しかし、これまでの私の保育実践を振り返ってみると、自分で考えて行動できる子どもに育ててほしいと思いつつも、園生活のきまりや約束を身につけさせようと、「あれはだめ」「これはいけない」と規制が多くなりがちであった。子どもの自ら持っている「やってみよう」という意欲や好奇心を十分理解せず、「こうあってほしい」という教師主導型の保育になり子どもの自ら進んでやろうとする意欲を摘みとってきたのではないかと思われる。

そこで子どもの視座に立った保育を展開するなかで

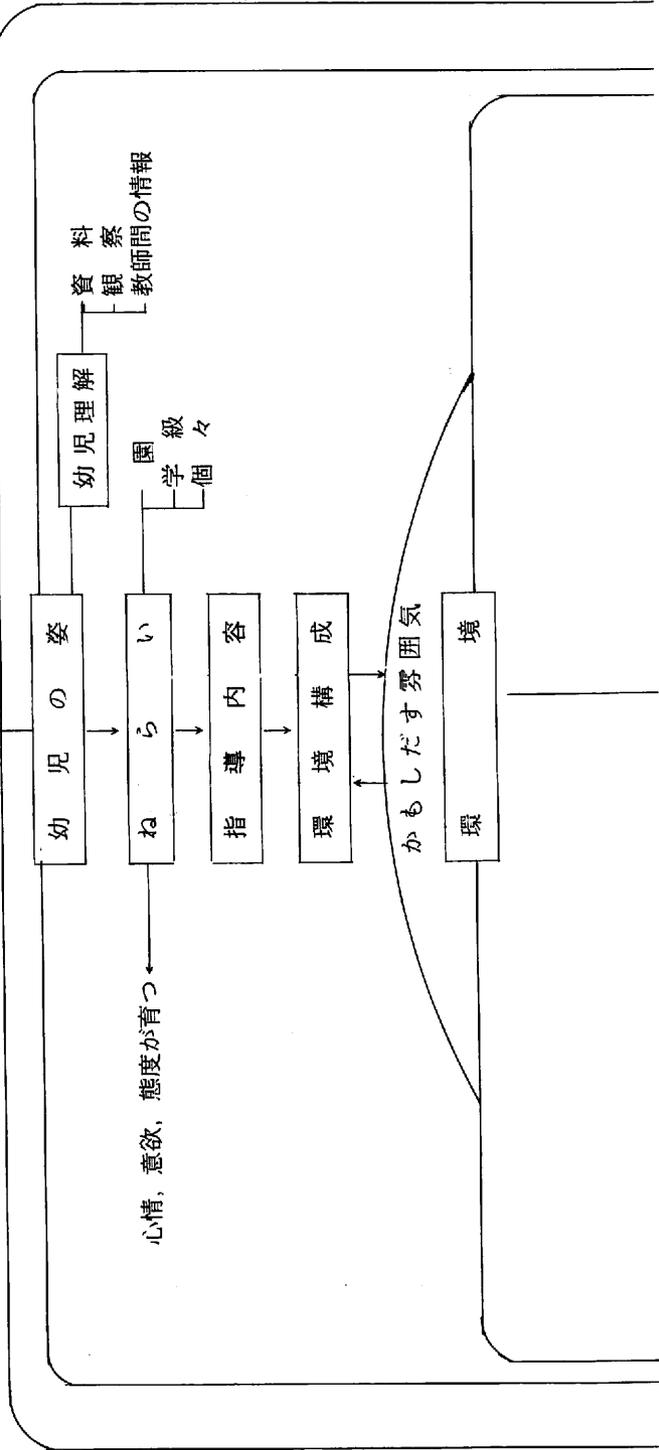
- ・ 一人一人の遊びを理解し、温かく見守りながら園生活を「させられる」から「する」ようにし、心情、意欲、態度の育ちをみる。
- ・ 子どもが自ら伸びようとする力を信じて、遊びたくなるような環境づくりをする。

以上のことをふまえて援助していくことで、主体的に活動する子どもが育ち、充実した園生活を送ることができるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 園の教育目標と研究テーマとの関連



※幼児の環境への関わり方は関連性と循環性を持っている。



興味・関心

自発的活動の展開

必要な体験

自己課題の克服

充実感

環境の再構成

意欲

空時間

◦ 個々の幼児が充実、安定するための時間や空間を保障する。

社会環境

社会施設
地域の文化

◦ 身近なニュースをとりあげる。
◦ 幼児向けの番組を適時みせる。
◦ 家庭環境、地域環境を把握し、可能なものに働きかける。

自然環境

小動物
栽培物
天候・風
水・土

◦ 扱いやすいもの世話のしやすいものをとり入れる。
◦ 園外保育を多くとり入れ、みたり、浦えたり採ったり、遊んだりする。
◦ 季節の変化に関心を持たせ、生活とのかかわりに気づかせる。

人的環境

友だち

◦ 感動や意思を伝えあったり協力したりする。
◦ さまざまな葛藤をしたり競いあったりする。

教師

◦ 一人一人を温かく受けとめ存在を認める。
◦ 一人一人の発達に対応した指導。
◦ 内面理解をし、意欲や自己充実感、イメージを促える。
◦ 共感しながら、その良さをより良いものにしていく。
◦ 幼児が望ましい方向にむかって自ら活動できるように必要な援助をする(励ます、気づかせる、考えさせる、教える、知らせる、モデルになる)
◦ 幼児同士を交流させるために働きかける。
◦ 知識や技能、態度などを獲得するための助言や指示を与える。
◦ 教師のかもしだす雰囲気(やさしさ、明るさ、温かさ、こまやかさ)

物的環境

遊具
施設
教育
機器
器具
備品
材料

◦ 具体的なねらいや内容に適合していること。
◦ 発達の時期に即していること。
◦ 興味や欲求に応じること。
◦ 生活の流れに応じていること。
◦ 見たり、触れたり、使ったりしやすい位置や場であること。
◦ 多くの幼児がとりくめるような量であったり、また、最小限に準備し、貸し借りや、新たな工夫が生まれるようにする。
◦ 知的好奇心をひきだすものであること。
◦ 材料の質や量のとりあわせを考慮することができること。

Ⅲ 主体的に活動する子どもが育つための教師の援助

主体性とは、他人に何かをさせられるのではなく、好奇心や意欲、挑戦目標をもって自分の責任において行動することである。

主体性が育つには、遊びという生活を通して子ども自身が多くのことを経験し、自ら考え、判断する機会や場を多くもつことが必要である。教師は管理保育をするのではなく、対話型保育をし、会話型指導をしていく。そこで教師は、「できる」「できない」を問題にするのではなく、子どもが失敗しても自分でやろうとする意欲、そしてくり返しやっていくなかで「できるようになった」という子どもの充実感を大切にす。また、子どもが他児とかかわり合いながら自己を発揮し、思いやりや、協調性、自制心が育つようにしていくことも重要である。幼児期に子どもが主体的な生活をすることは、将来豊かな人間性を築いていくためにも、自分で考え責任をもって行動できる人になるためにも是非必要であると考ええる。

1. 幼児理解

- 一人一人の発達課題をとらえる

幼児の発達には身体的、知的、情緒的、社会的な発達という四つの側面からとらえ、個人差がある。それぞれの子どもは自分が成長していく上での発達課題を持っており、それを教師に投げかけている。(何かをしようとしたり、何かに夢中になったりしている姿や子ども自身から発するつぶやきや行動である。)教師はその発達課題を受け止め、子どもに働きかけていくという相互作用をしていく。

- 内面理解をする

子どもの行動を見て、外にあらわれている外面的な行動だけをとらえるのではなく、なぜその行動をするのか内面の心の動きをとらえる。外面にあらわれてくる能力や技能ばかりでなく、意欲や自己充実感、イメージや子どもなりの発見や工夫、感動、好奇心などの内面の心の動きをとらえる。内面的なものを知ることは、なかなか容易ではない。わかりたいという(子どもの成長を願う温かい目、教師の姿勢)教師の心構えが大切である。

2. 信頼関係を築く

子どもは自分の存在が教師に認め受け入れられているということで安心する。教師は子どもの行動や発見、努力、工夫、感動などを温かく受け止め、認め、共感し、励ますことで信頼関係を築いていく。子どもは教師との信頼感をもって自ら自己を発揮していくようになる。

- 受容する

一人一人の子どもの考えや思いを全面的に受け入れ、その子の持っている力(良さ)が出せるような自由な雰囲気をつくる。子どもが「先生は自分をわかってくれている」「温かく見守られている」と感じとり、子どもが安心して自分の生活を展開できるようにする。

例 A子がB子の遊んでいる積木をだまって取ってしまったとき、「A子ちゃんはこの積木がほしいの」ということばかけをしながら、その感情を一旦受け止める。そのうえで、B子も積木で遊んでいることを知らせたり、一緒に遊べるようにしたり、別の物を用意したりする。

○ 共感する

教師は子どもの立場に立った見方や考え方をしようと努力する。「子どもの目の高さ」になって子どもをとらえる努力をし、子どものつぶやきに耳を傾けようとする。共感的理解のためには、視覚、聴覚、臭覚、触覚、運動感覚などのすべての感覚を使って感じとる。温かく見守り、期待通りに共感するだけでなく、マイナスの感情も受け止め、問題行動のある子どもの心の奥底をとらえていく。子どもと共に生活をすることによって、教師自身が感動する心を持ち、痛みや寂しさをわかち合うようにする。

3. 友達関係を育てる

子どもは幼稚園生活に慣れ安定してくると、個々に自分から動き出して遊ぶようになる。遊んでいくなかで少しずつ、他児を意識し、その動きに刺激されかかわりをもって遊ぼうとする。他児の存在によって、自分の欲求、興味が動機づけられたり、満たされたりする。また遊びを通して、子どもは遊びへの参加のしかたや遊びの中での動きを学び、相手の気持ちや立場を理解する。

友達関係が安定してくると、その友達との遊びの中で自分なりの動きをしようとする。そして一緒に目標や方向を見出し、互いに刺激し合い、協力したりして「皆で力を合わせると楽しい」ということを体得していくようにする。そこで、教師は個々の育ちを見守り、友達とのかかわりをもたせ、集団の相互作用の力を利用して主体性が育つように援助をする。

- ・ 友達と遊びたいが遊べない子へのつなかりの役をする。
- ・ 他の子の遊びの楽しさを知らせたり、刺激したり、その子の良さを知らせていく。
- ・ 子供同士の力関係を調整する。
- ・ グループ遊びの方向づけをする。
- ・ 自分なりの課題をもって取り組ませる。
- ・ グループの遊びを充実させる。

4. 環境を構成する

(1) 環境構成の視点

- 幼児の発達の時期に即した、具体的なねらいや内容に基づいた環境であること。
- 子どもの興味や欲求に応じた環境であること。
- 子どもの生活（遊びを中心とした活動や食事、片づけなど）の流れに応じた環境であること。

(2) 環境構成するための配慮や工夫

- ・ 子どもの興味・関心のあるもの、遊びたくなるような環境づくりをする。
- ・ 具体的、直接的に体験できる環境づくりをする。
- ・ くり返しを楽しむという幼児の特性があるので、くり返して遊べる場を工夫する。
- ・ 子どもは感動することで、やる意欲をみつけていくので美しいもの、感動できるものを準備する。
- ・ 教師が環境を全部整えるのではなく、幼児が気づいたり、考えたりできる余地をつくる。
- ・ 個人差に応じた適度の抵抗や困難のある遊びを考える。
- ・ 子どもが主体性を発揮できるように、教師と子どもと一緒に環境を創っていくようにする。

IV 保育実践

1. 指導計画

2期（5月中旬～7月） 第6週～15週	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ◦大半の幼児が園生活の流れに慣れ、教師に親しみをもって話しかけたり、自分の好きな遊びをする。 ◦友達を誘い合ったりして遊び、気の合った者同士の友達関係も生まれつつあるが、友達とのトラブルも多くなる。 ◦自分の身の回りの始末はできるようになるが、遊んだ後の片づけはおろそかになりがちである。 ◦水遊びが活発になり、ほとんどの幼児が水遊びを楽しむ。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◦自分の好きな遊びに興味をもって喜んで取り組む。 ◦好きな遊びを進めながら、気の合う仲間と気持ちのつながりをもつ。 ◦教師とかかわりながら、学級全体や園全体の遊びの楽しさを味わう。 ◦砂、土、水や身近な動植物にかかわって楽しく遊ぶ。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ◦進んで遊ぶことを通して、きまりの大切さを知る。 ◦友達と一緒に喜んでおやつや弁当をいただく。 ◦いろいろな素材や用具を使って遊ぶ楽しさを味わいながら、イメージを広げたり、工夫したりする。 ◦片づけの必要性に気づき、友達や教師と一緒に遊具や用具の片づけをする。 ◦身近な親しみ、世話をする。 ◦夏の遊びを経験することにより、開放感や感触などを味わう。 ◦身の回りの清潔に関心をもつ。
物的環境構成の視点	<ul style="list-style-type: none"> ◦いろいろな素材や廃品などを準備し、目的に応じて自由に取り出せるようにしておく。 ◦好奇心、活動意欲、創造性を満たす遊具の質や量を考えて準備する。 ◦大型積木、巧技台、とび箱、木工などの遊びが楽しめるように場のとり方に工夫し、安全の点検をする。 ◦水、砂、土などの遊びが発展できるように、材料や用具を準備する。
人的環境構成の視点	<ul style="list-style-type: none"> ◦ひとりである幼児には、教師と一緒に遊びながら、少しずつ他児との遊びへの参加や活動のしかたを知らせていく。 ◦好きな遊びに夢中になれる時間を保障し、見守る。 ◦子どもと一緒に活動し、共に感動したり、共感したり、また一緒に考えたりする。 ◦遊んだ後の遊具や用具の片づけなどについて子どもと話し合う。 ◦全職員で全園児の育ちを見守るようにする。園児一人一人の課題について、できる限り共通理解をもつようにする。

2. 発達課題（主体的に活動することによって育つもの）

	期	2期（5月中旬～7月） 第6週～15週
意 欲	興 関 心	<ul style="list-style-type: none"> ・砂、土、水遊びに興味をもつ。 ・虫や小動物に触れ、興味をもつ。 ・教師や友だちのすることに興味をもつ。 ・見たり触れたりしながら成長の変化に関心をもつ。（草花・小動物）
	積 極 性	<ul style="list-style-type: none"> ・虫や小動物に触れたり、つかまえたり、飼をあげたり、成長の様子を調べたりする。 ・進んでおやつ準備や手伝いをしようとする。 ・身近にある材料、用具を使って遊びに必要なものを作る。 ・教師や友達のダンスをみて進んで踊る。
	集 中 力 持 続 力	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に認めてもらったり、教えてもらったりすることで持続できる。 ・簡単なルールのある遊びをくり返し楽しむ。 ・先生や知っている友達と一緒に遊びを続ける。
態 度	生 活 習 慣 生 活 技 能 判 断 力 実 践 力	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールや約束を守ろうとする。・友達や先生の話静静地に聞く。 ・身近な生活用具（じょうろ、ほうき）を使う。・弁当箱をハンカチで包み結ぶ。 ・巧技台を工夫して組み立てていく。 ・わからないことを先生や友達に尋ね、どうしたらよいかを知る。 ・集団のきまりを守って行動する。 ・健康な生活に必要な習慣を身につける。（手足の清潔、洋服の着替え）
	協 調 性 協 力 自 制 心 責 任 感	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に集団遊びをしたり、真似たり、かかわりを持つ。 ・簡単な集団のきまりを守ろうとする。（順番を待つ、並ぶ、交替する） ・遊びの中で「入れて」「貸して」などのことばを言って参加しようとする。 ・当番の仕事や友達、先生との約束を守ろうとする。
心 情	安 定 感 感 受 性 満 足 感	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達がいて、一緒にいることが楽しい。 ・草花や飼育物などをかわいがろうとする気持ちを持つ。 ・砂、土、水に触れて遊び解放感を味わい満足する。 ・自分のしたいことを先生や友達に知らせ、認められて満足する。 ・草花の成長や気がついたことを先生や友達に知らせて満足する。
	認 識 思 考 表 現 力	<ul style="list-style-type: none"> ・草花、粘土、砂、土、水などの遊びで、気づいたり、見つけたり、くらべたり、確かめたりする。・物で遊びながら硬さ、大きさ、感触などの状態の違いに気づく。 ・巧技台、積木、とび箱、木工での遊びで安全に気をつける。 ・作ったり、壊したりしながら遊ぶ。 ・感じたり、見たことを話したり、形に表わしたりする。
	イ メ ー ジ 構 成 力 想 像 力	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことをもとに、自分なりに感じたままのイメージをもって遊ぶ。 ・身近な自然物（石、葉、枝、花びらなど）、遊具などいろいろなものに見たてて工夫して使う。

3. 週案 1年保育5歳児 にじ組40名 ほし組38名 つき組40名 教諭4名

5月第8週 5/28～6/2	幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを見つけ、用具や遊具を自由に使ったりし、遊びの場や行動範囲も広がりつつある。 3クラスの交流が自然に行なわれている。 				
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを見つけ、友達とかかわって遊ぶ。 自分たちで遊んだ遊具や用具を片づけ、その場をきれいにしようとする。 				
月日	5/28(月)	29(火)	30(水)	31(木)	6/1(金)	2(土)
行事				体育館使用 弁当会		
活 動 の 見 通 し	<input type="checkbox"/> あさがおに水かけをする (個人用のあさがお) →					
	<input type="checkbox"/> ままごと (木の葉や花をごちそうにしたり、フェルトで作られたごちそうで遊ぶ) →					
	<input type="checkbox"/> 折り紙 (好きな折り方、切り方をする) →					
	<input type="checkbox"/> スタンプ遊び (押して楽しむ) →					
	<input type="checkbox"/> パズル (いろいろな種類のパズルをする) →					
	<input type="checkbox"/> 巧技台 (一本橋でラインジャンケン、はしご、すべり台) →					
	<input type="checkbox"/> とび箱 (3, 4, 5, 6段をとんだり登ったりする) →					
	<input type="checkbox"/> スポンジマット (でんぐり返し、ジャンプをする) →					
	<input type="checkbox"/> 砂あそび (スコップで穴ほり、型押し、ごちそうづくり) →					
	<input type="checkbox"/> ♥ダンス ♥体操 (親子ミニ運動会にむけて、教師と共に踊る) →					
	<input type="checkbox"/> 人形劇 (テープに合わせて、指人形劇ごっこ・三匹のこぶたをする) →					
	<input type="checkbox"/> カルタ (カルタとりをする) →					
	<input type="checkbox"/> ♥毛虫づくり (のり、ハサミ、マーカーを使って製作) →					
	<input type="checkbox"/> 長縄 (ゆうびんやさんをする) →					

♥集団あそび

……幼児側から出してくると予想される活動

♥ ……保育者が刺激として出していく活動

友達と一緒に「買い物に行きます」とかごをぶらさげ、桑の実をさがしに行くが見つからない。ていきん桜の葉とさんだんかの花を摘んできて、おそばにみたてて、ままごとを楽しんでいる。

◦ていきん桜の葉の性質のおもしろさに気づき、いろいろなものに見たてて遊びを發展させてほしい。
◦葉や花など大事に使うようにしてほしい。

木の葉や花を無駄に使っていないか見守る。



「くわのみはないかな」

「おいしいおそばだよ」

遊戯室で教師と共にダンスや体操をする。興味のある子は進んですが、見ている子、恥ずかしがってしない子もいる。

「ダンスは楽しいな」
「親にダンスを教えたい」
「親と一緒に体操をしたいな」という気持ちを育てたい。

◦親子ミニ運動会について、帰りの会で話し合う。
◦ダンスを見ている子や余り興味のない子は誘って一緒に踊る。
◦園全体での活動（体育館）の中でダンスや体操の楽しさを知らせていく。

とび箱で開脚とびをする。（上手な子が多くかかわっている）
とび箱に登ってジャンプし、タンバリンをたたいて喜ぶ。（女の子が多い）

自分で目標を持って挑戦する意欲を育てたい。

とび箱をとぶ、ジャンプしてタンバリンをたたく。成功したら一緒に喜び、失敗したら次、〇〇に気をつけてとんでねとアドバイスをする。安全面に気をつけるようにする。

遊んだ用具を進んで片づける子、そのまま置きっぱなしの子、言われて気づく子がいる。

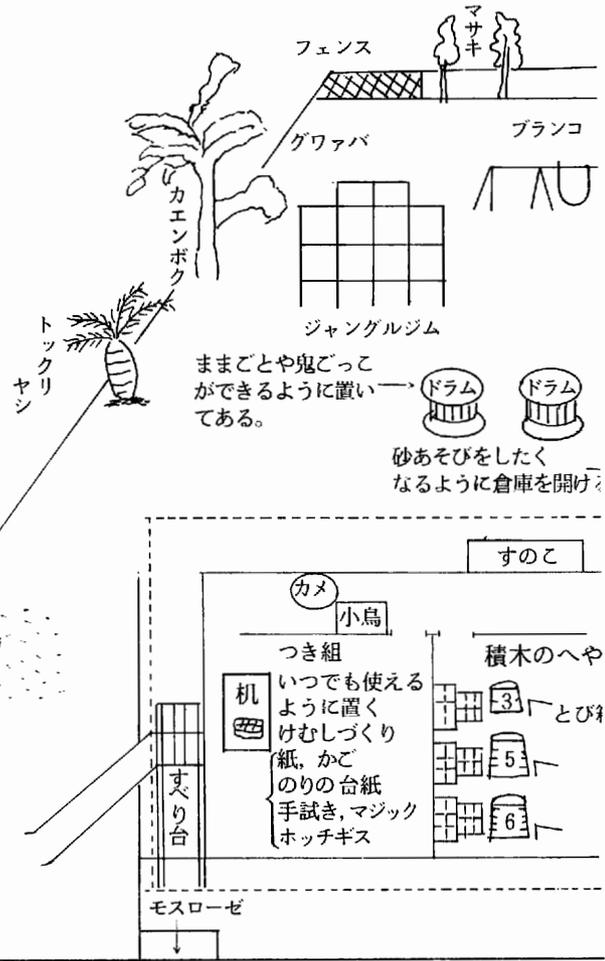
片づけをすると気持ちが良いことを知らせていきたい。

教師が卒先して片づけの仕方を見せる。頑張っている子は「〇〇さん上手だね」と認め、他の子にも気づかせていく。

——の囲み……幼児の姿
----の囲み……保育者の見かた・考えかた
~~~~の囲み……具体的な援助・働きかけ

#### 4. 園内の環境構成図

平成2年6月2日(土)



**小学校の環境の活用**

- ・飼育小屋
- ・固定遊具
- ・セミとり, 虫とり
- ・草木, 花
- ・体育館

書いたり, 切ったり, つくったりする。  
紙, 折り紙, 鉛筆  
ホッチギス, セロテープ

**教具**

かごの中 (短縄, 長縄)  
竹馬 (カメ)  
ワゴン  
ほし組  
ままごとと

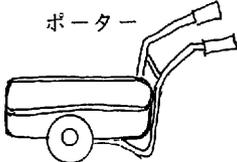
ベランダ北

自分たちで遊びを考えていけるように空間をつくる。  
サッカー, なわとび, 竹馬, 鬼ごっこ, 集団あそび

- ・買い物ごっこができるようにかごを置く
- ・エプロン, ござ, 食器類
- ・テーブル
- ・ロングスカート
- ・マント (男の子もままごとに入りたくなるようにセットしておく)



5. 日 案 平成2年6月2日(土) にじ組40名 ほし組38名 つき組40名 教諭5名

| 幼児の姿                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 友達と関わって遊んでいる子や未だ安定できなくて教師のそばを離れられない子がいる。</li> <li>◦ 遊びを見つけ、いろいろな場にいき遊びを楽しんでいる子がいる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環 境 構 成                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 受 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>8:15</p> <p>◎じょうろを籠に入れ、目につきやすいように玄関横に置く。</p> <p>◎BGMを流し、明るい雰囲気にする。</p> <p>◎砂場用具の入っている倉庫を開ける。<br/>スコップ、容器、なべ、籠、とい、ふるい、たらい。<br/>・ポーターを使って砂あそびや片づけも楽しくできるように置く。<br/>・裸足になりたくない子のためにぞうりを置く。</p> <p>◎ままごとコーナーをセットして置く。<br/>流し台、テーブル、座布団、ロングスカート、エプロン、ファルトや紙粘土で作ったごちそう、水飯器、食器類。</p> <p>◎とび箱、4、5、6段は前日の活動の続きのままセットする。</p> | <p>登園する。</p> <p>◦ 自分のあさがおに水をかける。</p> <p>◦ うわばきをはきかえる。</p> <p>◦ おたより帳に印を押す。</p> <p>◦ カバンや帽子を片づける。</p> <p>☆好きな遊びをする。</p> <p>◦ 砂場で遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型ぬき、ケーキづくり</li> <li>・穴ほり</li> <li>・水を運ぶ</li> <li>・ダムづくり</li> <li>・ポーターを使って水や用具を運ぶ。</li> </ul> <p style="text-align: center;">ポーター</p>  <p>◦ ままごとをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さん、お姉さん、赤ちゃんなどの役をする。</li> </ul> <p>◦ とび箱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とび箱の上に登って、遠くにとんだり高くとんだ</li> </ul> | <p>◦ 挨拶や言葉を交わしながら温かく迎える。</p> <p>◦ 進んであさがおに水かけをしているのを認める。<br/>「あさがお水をいっぱい飲んでいるね」</p> <p>◦ 自分で遊びを見つけようとしている姿を見守り、個々の遊びを認める。</p> <p>◦ 「～つくっている」というイメージを受けとめる。</p> <p>◦ 草や花も使って作りたいというイメージを大切に、草花を摘むのを規制せず認める。</p> <p>◦ お母さんになってごちそうを作ったり、お客さんに出したりして楽しんでいる様子を認める。</p> <p>◦ とび箱の上からとんでいる姿を認める。<br/>「すごい、ここまでとべるん</p> |

ねらい

- 好きな友達と楽しく遊びを進めていく。
- 生活していくなかで、園生活に必要なきまりのあることに気づく。

教師の援助活動

| 内面理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 共感                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 知らせる・教える<br>気づかせる・考えさせる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◦ 視診をして心身の状態を把握する。</li><li>◦ 進んで水かけをしている姿を認める。「がんばっているね」「水かけ、言われなくてもよく気がついたね」</li><li>◦ すぐにやりたい遊びが見つからない子もいるので、あせらずやろうとするのを待つ。</li><li>◦ つくったものを教師や友達に食べてもらうことが喜びであり、励みになる。そういう気持ちを考慮する。</li><li>◦ 同じ遊びでも、どこに興味を持ち何をしようとしているのかを把握し、個々にあった励ましや助言をする。</li><li>◦ 教師や友達がお客さんになることで、子どもがおいしいのを作ってあげたい。食べさせてあげたい気持ちを知る。注文をいっぱいし、食べて励ます。</li><li>◦ 自分の目標を持ち、挑戦する気持ちを励ます。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>◦ 「私のあさがおの花が大きく咲いているよ」「ほんと大きいね」「きれいだね」と共感する。</li><li>◦ 「～みたいなケーキだね」「おいしそうなのはんだね」と、その子の頑張っているところ、工夫しているところを中心に共感する。</li><li>◦ 「しみ込んで水がすくなくなるね」「あわができるね」などの子どもの発見に共感する。</li><li>◦ 「おいしかったね、お料理上手ね、もっといっぱいお友達を呼んでこようね」と教師も仲間に入って楽しむ。</li><li>◦ 「やったね」大成功と一緒に喜ぶ。</li><li>◦ 「もう少しだったのにね、残</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>◦ 「元気な挨拶だね」「おじぎが上手ね」と挨拶をするとう気持ちよいことを気づかせる。</li><li>◦ 「何色が咲いているのかな、いくつ咲いているのかな」</li><li>◦ 「はだしは気持ちいいね」「ぞうりは水にぬれても平気だね」とぬれることを気にせずに遊ぶための身支度に気づかせていく。</li><li>◦ 「みて、〇〇さんおいしそうなお菓子をつくったのよ」と他児の遊びを知らせていく。</li><li>◦ 「〇〇さんも一緒に遊んでいるの」と周りの友達に気づかせていく。</li><li>◦ 「ごちそうの盛りつけ方上手だね」などと、気づかせる。</li><li>◦ 「みて〇〇さんとべたよ」「〇〇さんもう少しだね」などと、頑張っている姿を</li></ul> |

○とび箱3段を、やりたい子は4段をとりはずし組み立てる。

◎二階ベランダ東

自分たちで相談しながら組み立てる。

一本橋、はしご、すべり台、スポンジマット

◎二階ベランダ北

◎遊戯室

・カセットテープやボンボン、冠を置く。

◎籠に細長く切った紙を机の上に置く。

・マーカー

・のり、のりの台紙、手拭き。

◎人形劇舞台をセットする。

・三匹のこぶた、母さんぶた、おおかみの指人形、かご、ペープサートの家

◎長縄、短縄を籠に入れて置く。

◎積木、ブロック、カルタ、所定の場に置く。

◎砂場

○容器やスコップなど、分別別に片づけしやすいように籠や棚に名前や印を貼る。

○ホース、たらい、足拭きマット、雑布

○汚れたり、ぬれた靴下を入れるためのビニール袋を用

りする。

○巧技台セット

・すべり台をすべる。

・ジャンケンゲームをする。

・ジャンプしてスポンジマットにおりる。

○ボールけりをする。

○ダンスや体操をする。

・タタロチカ、親子体操、ポピー体操。

・カセットをならす。

○けむしをつくる。

・じゃばら折りをする。

・色ぬり

・のりづけ

○人形劇ごっこをする。

・三匹のこぶたの配役を決める。

・カセットをかける。

○長縄でゆうびんやさんをする。

○積木、ブロック、カルタで遊ぶ。

○砂場の片づけをする。

・使った遊具は元の場所に片づける。

・汚れた手足をきれいにする。

だね」

○開放感を味わいながら大声を出して遊ぶのを認める。

○友達と一緒に遊び、ジャンプするのを励ましたり、友達を援助している姿を受けとめ認める。

○自分から進んでやろうとするのを認める。

○個々の表現を楽しんでいる姿を認める。

○一生懸命折っている、工夫してきれいな色にしようとする姿を受けとめる。

○指人形の配役や動きを楽しんでいるのを認める。「こぶたさんかわいい動きね」

○なわとびに挑戦するのを認め励ましていく。「〇〇さん、はがきが5枚までとべたね」

○積木、ブロック、カルタで遊ぶ。

○ポーターを使って片づけを楽しんでいるのを認める。「わーいっぱい運べるね」

○自分で使ったものをきれいに洗ったり、友達の分も手伝ってあげたりして一生懸命片づけようという気持ち、姿を受けとめる。

- 巧技台で遊びながら、それぞれのイメージで遊ぶのを受けとめる。

「いいこと気がついたね」

「よく考えたね」

- 恥ずかしがらずに楽しむ気持ちを認める。
- 一生懸命踊る姿やろうとする気持ちを大切にします。
- 折るのは個人差があるのでその子なりに頑張る気持ちを受けとめる。

- その役になりきっている気持ちを大切にします。「おおかみさんの声こわいね」

- 失敗しても恥ずかしがらずに頑張ろうとする気持ちを受けとめる。

- 個々の遊びに応じて片づけのタイミングを認めていく。

- 汚れた手足をきれいにしようとする気持ちを大切に、できた時は認めてほめていく。

念だったね」と、また挑戦する意欲をもたせる。

- 「ジャンケン何回勝ったの」「負けたの」などと、教師も一緒に遊びを楽しむ。

- 友だちの励ましによってできたことを共感する。

- 「〇〇さんの手のあげ方上手ね」「よく音を聞いているね」

- 「わーかわいいけむしになったね」「きれいな色のけむしになったね」と工夫しているところを共感する。

- 子どもとお客さんになり「狼の動き上手だったね」「こぶたかわいかったね」と拍手をして励ます。

- 「あー残念、もう少しだったのにね」と次、挑戦しようとする意欲をもたせる。

- 「おいしそうなケーキだったね」「今日は楽しかったね」「また明日もしようね」と共感する。

他の子にも知らせる。

- 友達を押ししたり、ふざけないように安全に気をつけさせる。

- ボールは高くけるとフェンスから園外に出てしまうので気をつけさせる。

- 教師が踊ったり体操をしたりして動作をしながら知らせる。「ここのところは足を伸ばすとかっこいいよ」
- 「ここは引っくり返さないですとうまくいくよ」とじゃばら折りを教える。

- 「お客さんがよく見えるようにしてね」と指人形を高くあげることに気づかす。

- 「ゆうびんやさん」の歌をうたいながら、リズムのとり方に気づかせる。

- 汚れている手、足、衣服の始末のしかたについて知らせていく。

- 「もう片づけようね」と声をかけながら、片づけ方やそれらの場所を自分の動きにことばを添えながら動いていく。

意しておき、自由に使えるようにする。

- ◎ その他の片づけ  
もとの場所に片づける。

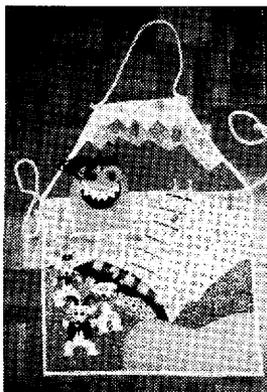
10:00

- ◎ 教室の中央に集まる。
  - ・話しやすい雰囲気づくりをする。

- ◎ おやつ
  - ・円形になり腰掛けに掛ける。楽しい雰囲気でもミルクが飲めるようにする。

10:45

- ◎ 帰りの会
  - ・指あそびや歌をうたって楽しい雰囲気づくりをする。



11:15

◎ 降 園

- ◎ その他の片づけ
  - ・使った遊具を片づける。
  - ・手を洗う、ハンカチで拭く。

- ◎ 自分の教室に入る。
  - ・集まる
  - ・指あそびをする
  - ・ハンカチ手品をみる。
  - ・今日遊んだことについて話し合う。

- ◎ おやつ
  - ・手を洗い、ハンカチで拭く。
  - ・ミルクを飲む
  - ・片づける

- ◎ 帰りの会の準備をする。
  - ・カバン、帽子を準備して教室の中央に集まる。
  - ・エプロンシアターをみる。
  - ・指あそびをする。
  - ・月曜日はどんな遊びをしたいか話し合う。
  - ・内科検診について話を聞く。(図鑑をみる)
  - ・先生に一人一人抱きあげられて、さよならをする。(親子ミニ運動会にむけて、ダンスの最後のポーズ)

○ 「楽しかった」「明日もしたい」という気持ちを受けとめながら片づけ、明日の遊びにつなげていく。

- 自分で使ったものを進んで片づけようとする姿を認める。
- 遊んだ後、進んで手を洗いきれいにしようとする姿を認める。「よく気がつくね」

- 自分から進んで集まろうとする態度を認める。
- 楽しかったことやおもしろかったことを皆の前で話す意欲を認め励ます。

- 自分から進んで手を洗い、ハンカチで拭く姿を認める。
- 進んで片づけをする姿を認める。

- 静かに話を聞こうとする態度を認める。(〇〇さんの座り方は前を向いてきれいだね」「先生の目を見て話を聞くのが上手だね」)
- 指あそびを頑張っている姿を認め励ます。「よく覚えているね」「上手になったね」
- 友だちが抱きあげられている姿をみて、自分もやってもらおうとする姿を受けとめる。「さよなら、また月曜日ね」

- 水の感触を楽しみながら、片づけている子どもの気持ちを認める。
- 自分で使ったものや友達のも手伝ってあげようとする気持ちを受けとめ認める。
- 「きれいになって気持ちが良いね」ときれいにする気持ちを受けとめる。
- 恥ずかしがって発言できない子は「後で先生に聞かせてね」と励ます。
- とび箱や他の遊びで挑戦し、できたことを皆に知らせたい、認めてもらいたい気持ちを知る。
- ミルクは余り好きでないが頑張っって飲もうとする気持ちを知る。
- クラスの皆と一緒にいることが楽しい、指あそびやエプロンシアターを皆でみることが楽しい気持ちを知る。
- 今日一日いっぱい遊んで楽しかったことを皆に話をし、聞かせたいができない気持ちを知る。
- 月曜日、いっぱい遊びたいという気持ちを受けとめる。
- 先生に抱きかかえられて恥ずかしい、うれしい気持ちを知る。
- 「〇〇さん水冷たくて気持ちいいでしょう」と感触を楽しんでいる子を共感する。
- 「きれいになって気持ちがいいね」と共に喜ぶ。
- 「先生も手をきれいにしよう」と言いながら、子どもと一緒に手を洗う。
- 「〇〇さんはケーキを作ったのでこの次食べさせてね」と意欲をもたす。
- 「〇〇ができるようになったよ」「ほんとよかったね、皆にみせてくれる」とできたことを皆で喜ぶ。
- 「いっぱい遊んだ後のミルクはおいしいね」と共感する。
- 「ぼく、このお話知っているよ」「ほんと、だれがでてくるのかな」と聞きながら、共通の話題があることを喜ぶ。
- 「ぼく重たいよ」「ほんと、抱き上げられるかな、頑張ろうね」と心配する子どもの思いを受けとめ、抱き上げることで共感する。「できた」
- 「カップやスコップは砂がついたまま、たらいに入れて洗ったほうがいいのか」と片づけのしかたに気づかせる。
- 片づけの時間はせっせと動いて片づけるんだということを保育者の姿から伝えるようにする。
- 友達存在や良い点に気づかせる。「〇〇さんはおもしろいことをしていたね。皆に教えてね」
- 「〇〇さんの手の洗い方、丁寧で上手だね」と洗い方に気づかせる。
- 「どんなお話が始まるかな」とエプロンをかけながら、知っている話が気づかせる。
- 月曜日の内科検診についてどんな準備をするか知らせる。
- うわばきを洗たくするために持ち帰ることを気づかせる。

6. 日案の展開例

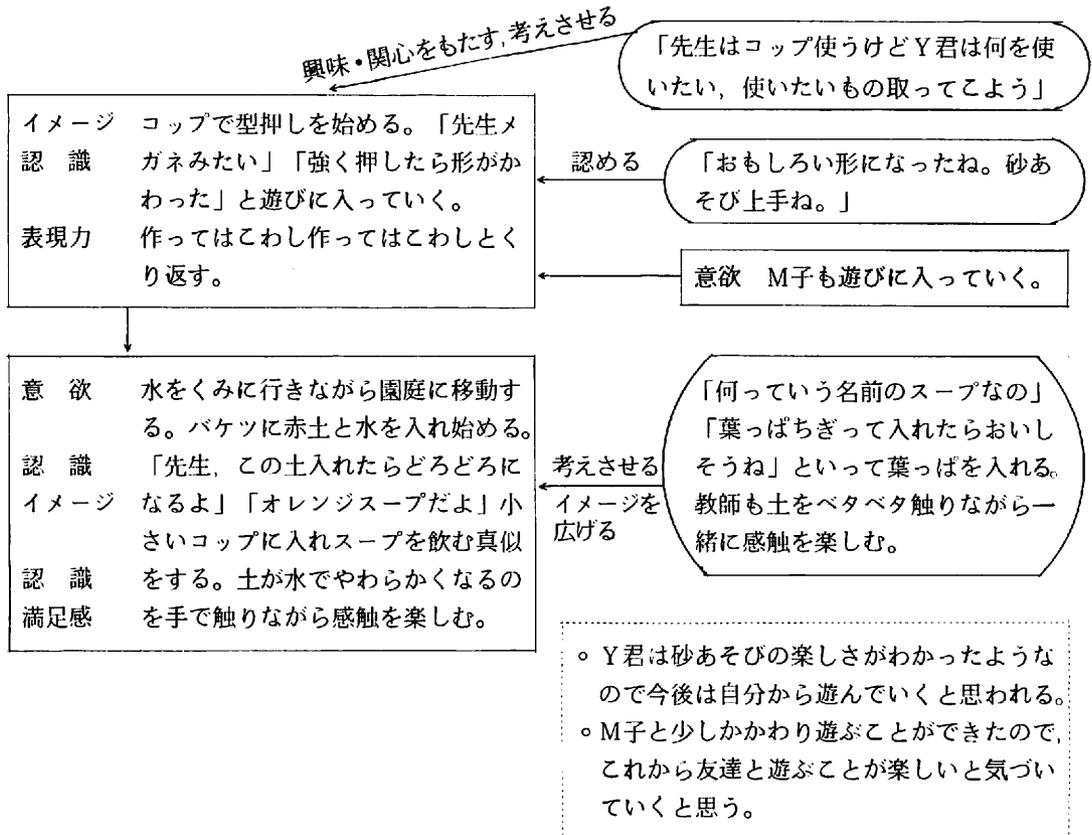
育つもの、幼児の活動

教師の援助

考察

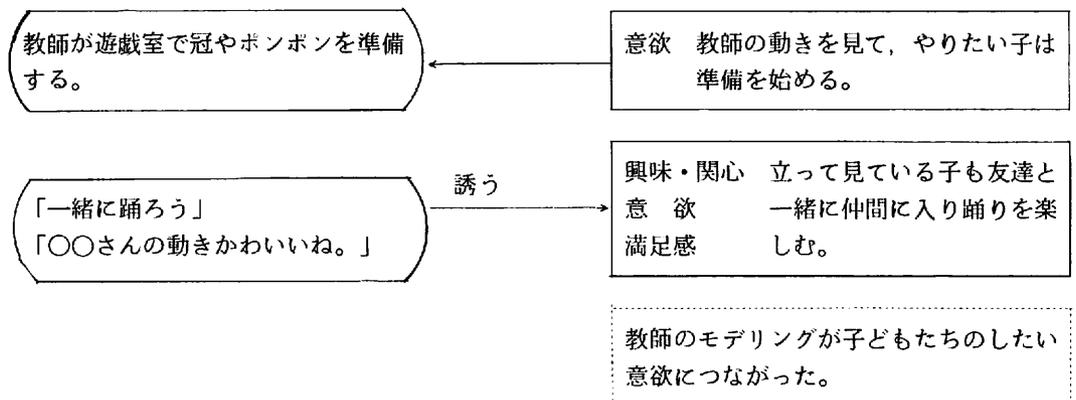
<展開例1> 砂あそび 教師が遊びを誘発することで積極的になっていったY君

Y君はいつも一人でぼつんとし遊ぼうとしない。教師が砂あそびに誘うとついては来るがなかなか自分からは遊び出せない。教師と一緒にいることで安定している。

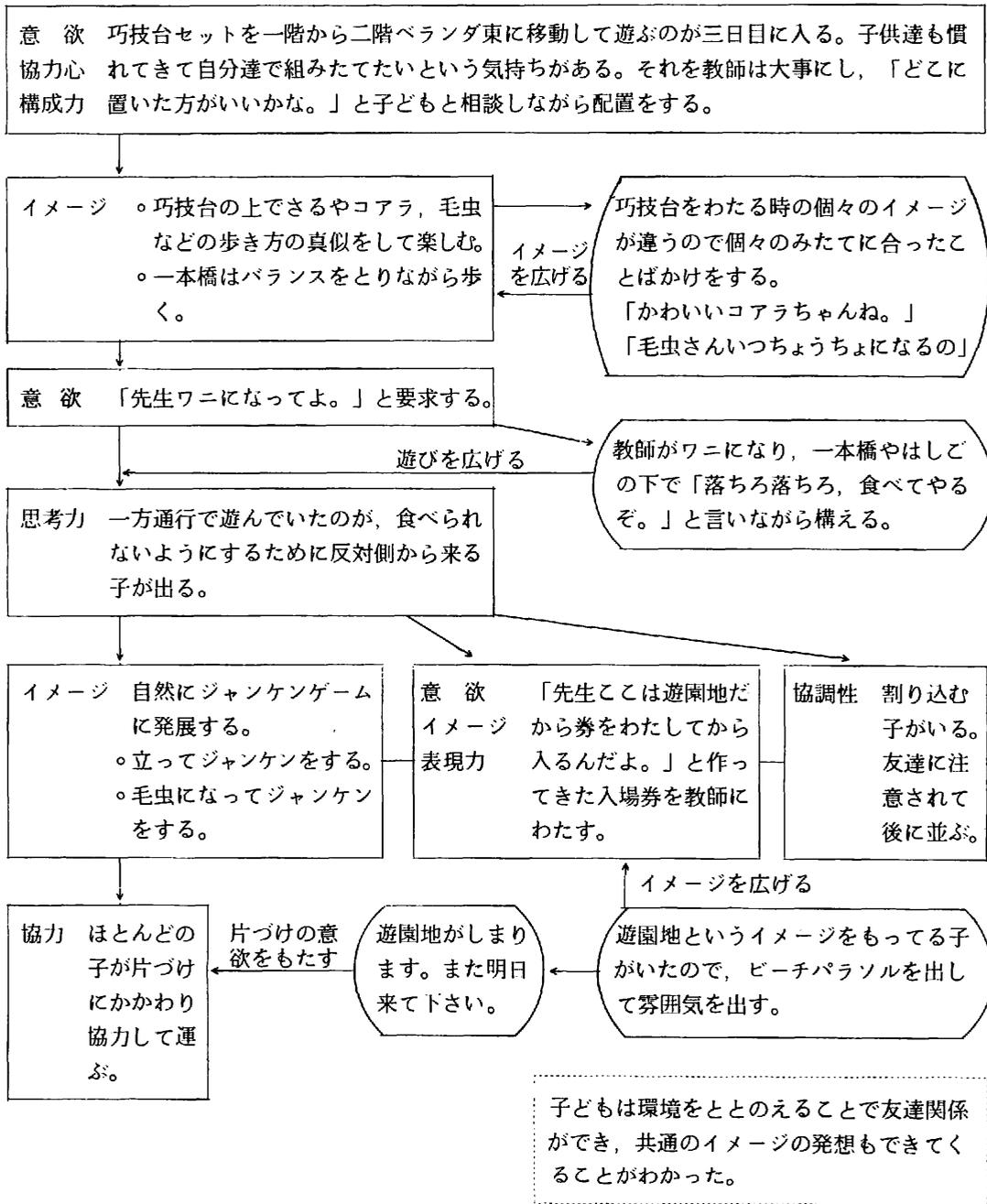


<展開例2> ダンス・体操 教師が意識的に刺激していく活動

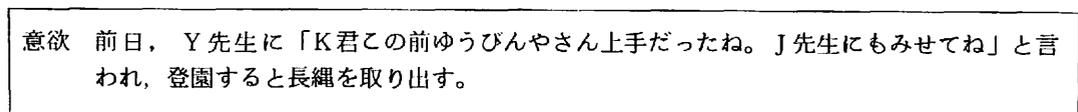
親子ミニ運動会にむけて、教師が意識的に働きかけ園全体の活動に発展させたい。

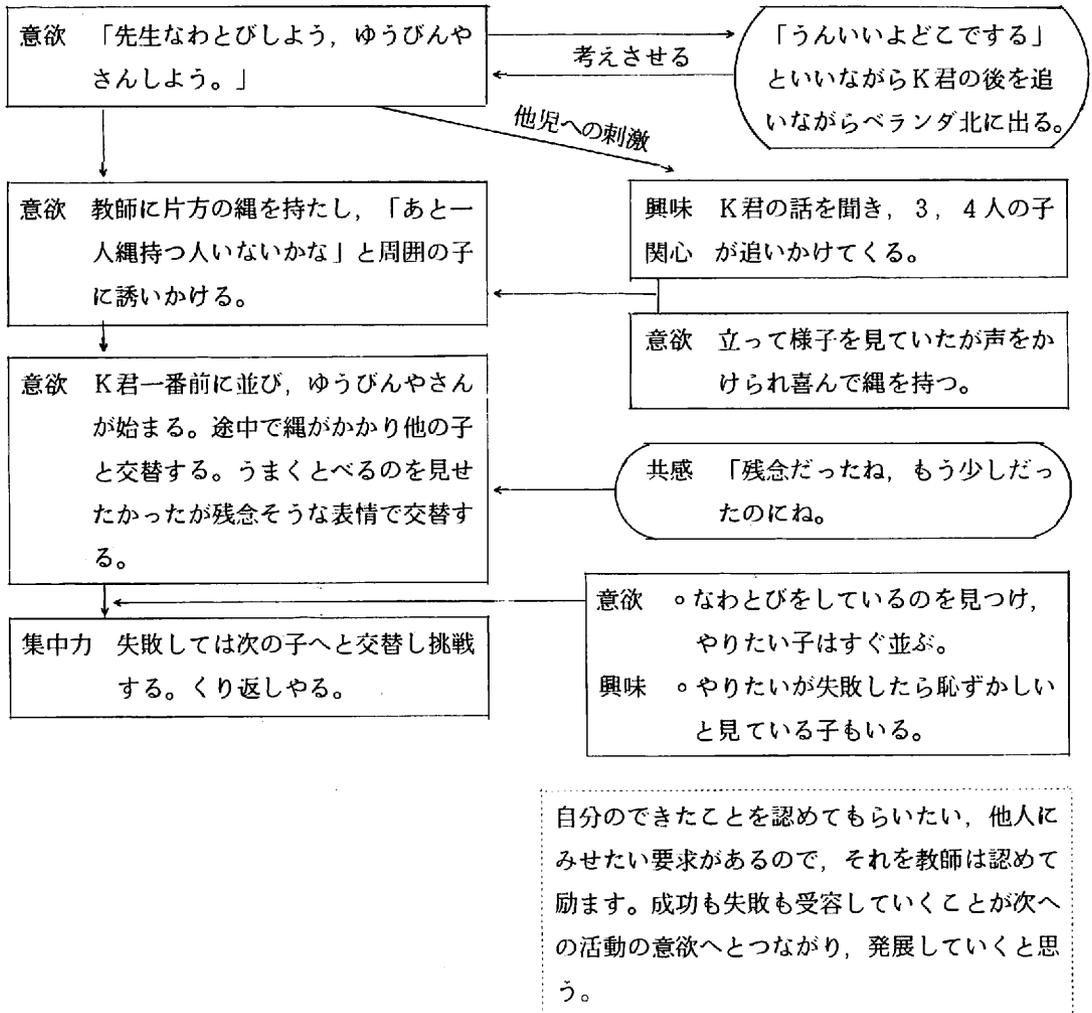


<展開例3> 巧技台の遊ぶ場所を変えたことで子どもがより意欲的に取り組んでいった場面



<展開例4> なわとび 教師のことばかけで自分から進んで取り組んでいった場面





## 7. 反省と考察

- 砂遊びで、友達と一緒に遊んでいるように見えるが個々のイメージはそれぞれ違って、思い思いに遊んでいた。(穴ほり、セメントづくり、誕生会のケーキ、ごはんなど) いつ、個々の遊びのつながりができてくるかが楽しみである。
- 砂遊びの片づけの時、ポーターを宅急便にみたてて、砂場用具類のをせ片づけを楽しんでいる子がいた。ポーターを使って遊びたいという気持ちが片づけへの意欲へつながっていったと思われる。
- 環境構成の中に、木工遊びは入っていなかったが、遊びを見つけきれない子のために木工を出す。(受話器をつくる子がいた。) 木工を出したことで、遊べない子が遊びを見つけて遊ぶことができたのでよかった。
- 木工遊びの場と砂場用具を片づける場所が近く、ぶつかり合いが見られたので、木工遊びの場を考えていきたい。
- ティームティーチングをすることによって担任以外の先生にも安心して関わられるようにな

ってきた。一階、二階、園庭と子どもの遊びの場が広がった。

- 興味を引くような教材（ハンカチ手品、エプロンシアターなど）を使い、楽しい集会を持つようにした。そのことによって、子どもたちも早く集まり「今度はどんなおもしろいことをするのか」と期待し、集中するようになってきた。今後も子どもの興味をひく教材研究をしていきたい。
- 砂場でのセメントづくりやケーキ、ごはんの盛りつけ方、木工での受話器をつくるなどの遊びをみていると、親の職業や家庭の様子をうかがうことができた。子どもの遊びは生活との関わりが大きいことを再確認した。

## V まとめと今後の課題

### まとめ

- 教師が子ども一人一人の立場に立って、子どもを理解していくことが大切である事を知ることができた。教師が子どもの活動している姿を受けとめ、認めていく。そして、子どもが活動していく中で、「この活動を通して、この子に何が育っていくのか」と教師が子ども一人一人をとらえていくことで、その子に合った適切な援助ができることがわかった。
- 子どもの活動に対して、適切な援助をすることで、子どもは自分のことを知ってくれるという安心感と、また教師が自分の行動を受けとめ、認めてくれるという安心感が出てきた。このように教師と子どもが互いに認め合うことで、信頼関係が築かれ、子どもは意欲的に行動するようになった。
- 教師が子どもの興味・関心のある環境を構成することで、子どもは好奇心を持って自ら環境に働きかけ遊んでいく。子どもと教師と一緒に遊び、環境を再構成していくことで、子どもはより意欲的に遊んでいくことがわかった。教師と子どもが生活を共にしていくことで、一緒に園生活を創り出せることの重要性を知ることができた。

### 今後の課題

- これからも子どもが自ら活動したくなるような環境づくりや雰囲気づくりを工夫していきたい。
- 子どもが楽しい園生活を送ることができるように、子ども一人一人を理解するようにし、個々に応じた援助をしていきたい。

### おわりに

現場を離れることで子どもたちとの関わりが薄く、子ども一人一人を知りたい、内面理解をしたいと思いつつも、自ら進んで活動する保育形態では全園児118名が目に入り、クラスの子がなかなか覚えられない。そして教師の気持ちも伝えにくい、伝わりにくいことを感じた。やはり、教師と子どもが生活を共にすることで相互理解ができ、教師も子どもと一緒に育っていくことの大事さを知ることができた。これからも子どもと共に生活することを大切にしていきたいと思う。

これまでの四か月の研究期間、多くの方々にお世話になり、支えられて無事終了することができました。浦添市教育委員会の宮城久子指導主事ならびに各指導主事の先生方、福山朝秀所

長、大城昌周主査，市内幼稚園や市外幼稚園の先生方，本園の園長，職員の皆様方に心から感謝申し上げます。



「この砂で水が止められるかな」



「色水やさんののしいよ」

<参考文献>

|              |               |            |      |
|--------------|---------------|------------|------|
| 高杉 白子        | 魅力ある保育者たち     | ひかりのくに     | 1985 |
| 森上 史朗        | 幼児理解と保育内容     | ひかりのくに     | 1985 |
| バーバラ・ディ      | 自発活動を育てる環境づくり | 教育出版       | 1979 |
| (森上史朗，江波諄子訳) |               |            |      |
| 文部省          | 幼稚園教育指導書増補版   | フレーベル館     | 1990 |
| 高橋一之・野角計宏他編著 | 幼稚園教育要領の解説    | 第一法規       | 1989 |
| 岸井 勇雄        | 幼稚園教育要領用語解説   | 保育資料社      | 1989 |
| 西久保 礼造       | 保育実践用語事典      | ぎょうせい      | 1990 |
| 西久保 礼造       | 幼稚園の教育課程      | ぎょうせい      | 1990 |
| 西久保 礼造       | ことばかけ事例集      | ぎょうせい      | 1989 |
| 倉橋 惣三        | 倉橋惣三選集第二巻     | フレーベル館     | 1989 |
| 具志川市立教育研究所   | 研究紀要 第4号—1    | 具志川市立教育研究所 | 1989 |
| 大津市立教育研究所    | 研究紀要 3年次      | 大津市立教育研究所  | 1989 |